

■ 政治的教養を育む教育の取組

「選挙啓発講座と授業での振り返り」

◇ ね ら い

有権者となりうる高校生世代が、自分が暮らしている日本の未来について考え、話し合うことによって社会の形成者として未来を担っていくという公共の精神を育む。

◇ 内 容

1年生全員を対象に本校公民科教員による政治的教養を育むための講義を実施した。

◇ 日 時 等

[選挙啓発講座]

平成29年2月7日(火)5校時(本校体育館)

◇ 教科・科目等 LHR

◇ 参 加 生 徒 1年生146名(普通科(2)・商業科(1)・事務情報科(1)計4クラス)

◇ 取 組 の 内 容

1 事前・事後の取組

各クラスの担任が以下の冊子を使い、主権者教育についての意義を説明。

※使用教材：「私たちが拓く日本の未来」(総務省・文科省作成)

月 日	内 容
2月7日(火)	○上記教材の解説編(P6～29)について各担任から朝のSHRの時間に事前説明をした。
2月8日(水)	○事後学習として上記教材の参考編(P90～)について朝学習の時間に解説した。

2 当日の動き

内 容
○有権者としての自覚 選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことを踏まえ、学生のうちから日本の将来を担う有権者になるという自覚を持たなければならないという主旨を説明した。……(15分)
○選挙の仕組み 1889年に初めて選挙が実施されてから現在に至るまでの選挙の歴史について説明した。特に現在の国政選挙については詳しく解説した。 また、不在者投票や期日前投票など具体的な選挙制度についても生徒に発問しながら説明した。……(15分)
○現代の政治 クラス対抗のクイズ形式で選挙や政治にかかわる様々な問題を出した各クラスとも全員で話し合いながら協力して答えを出していた。……(15分)
○まとめ……(5分)

3 実施する上で工夫した点など

- (1) 生徒の興味関心が高まるようパワーポイントを活用するとともに、発問を多くしながら解説した。
- (2) 生徒が主体的に学ぶことができるように全員参加型のクイズなどを実施した。
生徒が互いに協力し合い考えることによって、より理解が深まるよう工夫した。

4 生徒の感想

- 普通科(男子) 「自分はまだまだ選挙に行くには知識不足なので高校にいるうちにもっと勉強しなければならないと感じた。」
- 商業科(女子) 「正直に言うとまだ自分が有権者になるという実感は持てない。」
- 事務情報科(男子) 「周りの生徒は自分より沢山選挙に関する知識があって焦った。」

5 成果と課題

- 有権者として身につけておかなければならない知識を一通りおさらいすることができた。
- 個々の生徒によって選挙や政治に関する興味関心の度合いや、持っている知識のレベルにかなりの差がある。
- 普通科の生徒は、現代社会を履修しているため理解が得やすいが、商業科および事務情報科の生徒は、上記科目を履修していないため、理解を得るためにはより丁寧な説明が必要である。

6 今後の課題に対する取組について

- (1) 「現代社会」を履修していない商業科および事務情報科の生徒にも、政治や選挙に関する基礎知識を定着させた上で講座ができるよう、朝学習等を活用した事前学習を実施する。
- (2) 模擬投票を体験させられるよう、選挙管理委員会などの外部機関と連携を図り、出前講座の実施を検討していく。



